

# 重症筋無力症 (MG)の 診断・免疫学的分類

MGは、抗体検査による鑑別が重要です！  
治療法が異なるため、抗AChR抗体陰性例では、  
抗MuSK抗体を測定しましょう。

監修  
国際医療福祉大学医学部  
神経内科学  
主任教授  
村井弘之先生

## 重症筋無力症 (MG) の免疫学的分類

重症筋無力症  
MG

抗AChR抗体測定

陽性

陰性

抗MuSK抗体測定

陽性

陰性

抗AChR抗体陽性MG

MGの約80%を占める。  
眼症状から全身症状へ。  
胸腺異常の割合が多い。

抗MuSK抗体陽性MG

球症状やクレーゼを起こす  
割合が高い。  
胸腺異常を認めない。

Double seronegative MG

MGの10-15%を占める。  
種々の表現型がある。

### 重症筋無力症 (MG) の代表的な症状

眼瞼下垂、眼球運動障害、顔面筋力低下、構音障害、嚥下障害、咀嚼障害、頸部筋力低下、四肢筋力低下、呼吸障害

※易疲労性や日内変動を呈する神経疾患では、類似の症状を持つ疾患がたくさんありますが、抗AChR抗体、抗MuSK抗体が陽性になるのは重症筋無力症だけになりますので鑑別に有効です。

### 2018年4月より抗MuSK抗体の保険が変更されました。

MGの診断に加え、**診断後の経過観察**を目的として測定した場合でも算定できるようになりました。

## ここが知りたい

### Q1 なぜ、経過観察で抗体を測定するのですか？

**A** 治療が長く続くMGでは、病勢の変化を速やかにとらえ的確な治療を行いQOLを可能な限り維持することが重要になります。MG患者の抗体価を経時的に測定していると再発が確認できる前に抗体価が上昇することがあります。抗体測定は病勢把握のマーカーとしてとても重要です。

### Q2 どのくらいの頻度で測定すべきですか？

**A** MGは症状に波がある疾患です。これまで抗AChR抗体陽性患者では、状態が不安定な時には1~2か月に1回、安定してきたら数か月に1回、抗AChR抗体の測定を行っていました。一方、抗MuSK抗体陽性患者は、球症状がみられる場合が多く、クレーゼの可能性が比較的高いため、重症化する患者が多いという特徴があります。より注意深く経過を観察する必要があるといえます。